

# 意見の要旨とこれに対する府の考え方

## 1 府立高校改革推進計画全般

意見の要旨	府の考え方
具体的な計画を発表して、次年度に実施するのではなく、受験生が安心して受験できるようにある程度の期間を設けてほしい。	具体的な実施計画の公表時期については、受験生に不安を与えないよう十分配慮します。
計画案を示して意見募集するのではなく、計画案の作成段階で府民や学校の意見を聞くべきではないか。	推進計画( )は少子化に対応しながら第1章から第4章までの教育改革を実現する方策としての再編整備について基本的な考え方の案をお示しし、皆さんからの意見を募集したものです。 また、今後の具体的な計画の策定にあたって関係者の意見を聞きながら進めていきたいと考えています。
ホームページなどを利用し、中学校にも十分に広報し、中学生自身が各高校をよく理解し選択できることが重要である。 改革案どおり高校改革を積極的に進め、設備・教師の面でも充実を図ることを期待する。	改革の実施や各高校の特色については、ホームページなどを積極的に活用するとともに、中学生や保護者の皆さんが十分理解できるよう、学校などを通じてわかりやすい広報に努めていきます。
すでに山城通学圏等の入試制度の変更が実施されているが、今回の計画案に反映しているのか。また計画案を出すに当たり、どのような調査をしているのか。その結果について、内容・理由について明確にして説明してほしい。	今回の推進計画( )は再編整備について基本的な考え方の案をお示したものです。この推進計画に基づく施策の具体化については、別途、実施計画を策定しながら進めていくこととしており、その際にはすでに実施した計画の結果などを常に調査・分析・検証しながら、より良い改革となるよう努めていきます。

## 2 再編整備のねらい

意見の要旨	府の考え方
様々な特色を持った高校があるのは良い。今回の改革は、閉塞状況に穴をあける取り組みとして評価し、早期実現を望む。ただ、高校の統合をする上で、地理的な状況、文化の拠点等も考慮し慎重に進めてほしい。	新しい多様で柔軟な教育システムの構築を目指して、様々な特色を持った高校の適正配置の実現に向けて、今後具体化を進めていきます。その際には南北に長い京都府のそれぞれの地域の状況や特性等にも十分配慮しながら、京都府の教育が全体として良くなるよう、改革に努めていきます。
社会や生徒数の変化に伴い、高校数や定員等についても見直しは必要であり、高校の特色をもとに生徒、地域にあった整備に期待している。	
特色ある高校もよいが、公立高校なのだから、各校の整備を進め、格差のない高校をつくってほしい。	急速に進展し、大きく変動する社会の中で、高校で学ぶ生徒は様々な目標や夢を持ち、幅広い分野から将来の自分の進路を見出すようになってきており、進路の決定の仕方や時期も個人によって大きく異なってきています。こうした中、教育内容・方法の工夫・改善や新しいタイプの学校・学科の設置等、魅力的で活力のある特色を持った府立高校の教育改革をさらに進め、生徒の個性を最大限に伸ばす教育の実現を目指します。
学歴社会が崩壊している中で、進学を学校の特色づくりとして掲げるのはいかがなものか。重要なのは人間関係であり、学習内容ばかりを優先せず、特色ある学校とは何か十分研究してほしい。	また、そのためには、研修の改善・充実を図り、確かな指導力と意欲ある教員の養成に努めていきます。
新しい多様で柔軟な教育システムの導入にあたり、生徒のニーズに対応でき、将来に必要なことを重点的に学べる高校や制度づくりが必要である。	

<p>学力向上に力を入れることも大事だが、丁寧な指導を行う教員についても力を入れ、高校自身も努力して、色々な生徒が通い、生徒の個性を最大限に伸ばせる特色ある学校づくりを目指してほしい。</p>	
<p>全日制を志望する生徒は基本的には入学できる状態にしてほしい。</p>	<p>高校教育は、義務教育の基礎の上に行われているものであり、入学に際しては選抜を行うこととしています。中学生が希望する高校に入学するため、切磋琢磨し、その能力を高めようと努力することは、充実した高校生活や将来の進路につなげる上で大切なことであると考えます。</p>
<p>学校の適正配置や学校規模の適正化は、急激な社会の変化や生徒数の減少が予想される今後において、高校教育を充実させ、学科の種類や履修形態など生徒のニーズに合うように検討してほしい。適正配置により有効な財源が多くかけられ、施設面の充実を図ることができる。生徒のニーズに応えるため適正配置を進め、魅力ある再編整備を推進してほしい。</p>	<p>生徒一人一人の能力や個性を最大限に伸ばす教育の実現のため、生徒や地域のニーズに対応する府立高校の特色づくりを進めるとともに、適正規模・適正配置の観点から再編整備を推進し、活力ある学校づくりを進めることを基本に、今後とも府立高校の改革に取り組みます。</p>
<p>生徒数が減少し価値観が多様化している現在、従来の高校制度に改善を加えることは当然。 計画案にあげる学校規模の適正化、適正配置は教育の根幹にかかわるもので必須である。適正規模を維持しながら各校が特色ある教育を展開し、地域保護者のニーズに応えるべき。</p>	

### 3 生徒数の動向と学校規模

意見の要旨	府の考え方
<p>生徒数が減少しても進路の選択幅は現状を維持してほしい。</p>	<p>今回の高校改革における高校の特色化は生徒の多様なニーズに応えるためのものであり、生徒数の減少に関係なく、進路の選択肢を増やしていこうとするものです。</p>
<p>昭和63年のピーク時を基準にして、適正規模を8学級とすることは根拠の一つになるのだろうか。 京都府南部においては平均8学級を下回っても不適正規模とは思えず、ピーク時を基準にするのはどのような理由からか。もともと南部の公立高校は規模が大きいので現在でも小さいということはない。</p>	<p>京都府南部地域においては、昭和63年度の入学者選抜においては、募集学級数で平均11学級程度ありましたが、平成17年度には7学級を割り込むことが予想されます。個々の学校を見るとかなり小規模になり、多様な選択科目の開設が困難になったり、部活動や学校行事においても様々な支障が生じることも考えられます。再編整備は、単純に適正規模に満たなければ統合の対象とするというような考え方ではなく、地域の状況や個々の学校の状況を踏まえて、活力ある学校とするための方策の一つとして考えています。</p>
<p>スケールメリット論は、学校経営を考えれば当然の視点であるが、公立高校では経営面は度外視したものであるべきである。人口減少のみを基準に規模決定・再編されることに違和感を感じる。教育過疎地域をつくってはいけない。</p>	

#### 4 望ましい学校規模

意見の要旨	府の考え方
<p>学級規模を考えることは重要だが、新しいタイプの高校も重要ではないか。</p>	<p>生徒減少による学校の小規模化が進む中であって、適正規模を確保することで幅広い科目選択ができ、部活動や学校行事等も活性化し、集団の中でのより良い人間形成の機会が広がる、活力ある学校を維持することができると考えています。</p> <p>また、これと併せて、新しいタイプの学校をはじめ特色ある高校の適正配置を進め、新しい多様で柔軟な教育システムの構築を基本として、今後とも府立高校の改革に取り組みます。</p>
<p>適正な学校規模およびそれに対する特色ある教育内容、学校の選択の広域化などは、選択の幅が広がり、子供の特性を生かす選択ができることは良いことである。</p>	
<p>少子化の時代、高校の規模の適正化は学校の活性化にもつながり必要。府には公共交通機関がない地域もあり、そういうことも配慮して適正配置してほしい。</p>	
<p>学校行事、部活動等の活性化を図るには推進計画案の規模が適切で、再編整備は必要である。ただ、高校の歴史、伝統を継承し発展させる再編が重要である。施設・設備の拡充や指導体制の充実による社会変化に対応した教育システムを構築し、特色ある学校づくりを進めてほしい。</p>	
<p>小規模校では教職員配置や生徒の相互啓発で困難な点が多く、特色も出しにくい。適正規模の実現により施設・設備面での整備も期待される。</p>	
<p>1学級40人で、「社会の変化やニーズに的確に対応」できるのか。社会の変化などに対応できていないのであれば、もっと学級の人数を減らす必要があるのではないか。</p>	<p>学級規模については、標準法に基づく40人を基準としており、その中で少人数授業や多様な選択科目の設定など、きめ細かい教育の推進に努めているところです。</p>
<p>生徒数が減少傾向にあるのなら、1学級は30人～35人くらいでいいのではないか。授業や授業以外でも一人にかかる時間が増え、十分な指導ができるのではと思う。再編整備され環境が良くなるのは歓迎するが、勉強するだけの場にならないようにしてほしい。</p>	
<p>高校は義務教育ではなく、勉強したい人が行くところである。1学級の定員は40人でも50人でも良い。</p>	
<p>なぜ8学級が望ましいのかわからない。幅広く考えてほしい。みんなの行きたい学校は小さすぎるのは良くないが、大きくても構わないと思うし、8クラス以上と明記してはどうか。</p>	
<p>現在8学級に満たない学校でどのような問題が生じているか分析、指摘がなく、生徒が学校、社会で自分らしさを発揮できず、画一的にさせられる恐れはないのか。生徒への影響を考えてほしい。</p>	<p>今回の推進計画においては、生徒一人一人の能力や個性を最大限に伸ばす適切な教育課程の編成や一定規模の生徒や教職員の集団を維持し、施設面の条件も見ながら、標準的な規模としての適正規模を示しているのであり、実際には各高校ごとの履修形態や施設、立地条件など様々な条件も勘案して判断する必要があると考えています。</p> <p>そのため、再編整備を進めるにあたっては、全校一律に8学級規模にするものではなく、個々の高校において、いかに活力ある教育活動が展開できるのかという観点から検討していくこととしています。</p>
<p>少子高齢化の時代を迎え、学校の適正配置をすることは当然である。できるだけ早期に具体的な計画を府民に示して、抜本的根本的な改革を断行していただきたい。</p>	<p>再編整備の具体化にあたっては、中学3年生数の将来見込みに基づき、中学生の志望動向、地域の状況・特性等を十分に考慮し、通学距離や通学時間、各学校の施設状況や立地条件も踏まえながら総合的に判断することとしています。</p>
<p>少子化や生徒の進路希望により高校進学に偏りが出てきており、結果的に保護者に経済的負担、家族の絆に負担を強いているような気がする。</p> <p>過疎地域の高校が果たしてきた役割は人材だけでなく地域の活性化に有形無形の影響を与えてきており、そのことを十分に理解いただき、単に規模等で判断することなく特色ある学校づくりの中で議論されることを望む。</p>	

<p>求められているのは、人間的触れあいによる生き方としての指導で、それが可能な望ましい学校規模は、単に生徒数とか学級数で示すことができるのか。小規模でも地域に見合っていれば適正な学校で、地域に根ざした学校こそ、地域に開かれた学校になれるのでは。</p>
<p>学校の規模の適正化、適正配置についておおむね方向性、理念については理解できるが、南部地域においては、人口流動が激しく向こう10年の適正化を議論するのは難しく、府立高校の再編を推進するのは疑問を感じる。 この改革推進計画によって地元の府立高校がどのように変わるのか不安であり、府民の意識も十分に考えて計画を進めていただきたい。</p>

## 5 全日制の再編整備

意見の要旨	府の考え方
「発展的に統合」とは、具体的にどういうことなのか。	発展的統合とは、複数の高校が培ってきた伝統や校風、教育上の様々なノウハウを結集し、新しい学校を誕生させるものと考えています。
亀岡、山城、京都市を分析して地域ごとに課題を整理し、同じ公立として府市協調してメニューを示してほしい。	再編整備の検討にあたっては、京都市、私立の各高校の設置者とも協調を図るとともに、各地域ごとの状況や特性等を十分に考慮し、通学距離や通学時間、各学校の施設条件や立地条件なども踏まえ、総合的に判断していきます。 また、北部の小規模化の進んだ高校では、教育方法や教育内容において特色ある高校に転換したり、広域的な生徒募集を図るなどの改善についても検討します。
競争激化で通学、交通費への配慮もお願いしたい。	
少子化で部活動にも支障が出ており、北部においても適正規模を確保して再編してほしい。	
北部の小規模校では、規模が小さくても特色のある教育方法や教育内容を工夫してほしい。 また、通学区域を広げたり、広い地域から生徒を募集して活力ある学校として充実させてほしい。	
府内の高校を選択できることは当然であると思うが、地域性のため府内全域を見通して進路選択ができないのも事実であり、生徒数で安易に統廃合しないように、地域、経済への影響も含め慎重な対応をお願いしたい。	再編整備は、単純に適正規模に満たなければ統合の対象とするというような考え方ではなく、地域の状況や個々の学校の状況を踏まえて、活力ある学校とするための方策の一つと考えています。特に北部地域については、生徒の通学条件、中学3年生数の動向や志望動向、地域の状況に加え、地域における今後の役割なども総合的に検討して進めていきます。
高校の適正配置については、生徒数の激減などからできるだけ早く対処するのが当然だと思う。その際、特に北部の交通事情、過疎化の問題等を配慮しなければならない。	
全日制普通科の高校を減らすことなく発展させるべき。定時制・通信制の充実のためにも全日制の生徒の受け入れが大切である。	
再編整備の進め方のうち通学距離・時間に配慮することとは、どういうことか。 また、施設条件や立地条件を踏まえるとは具体的に何を意図しているのか。	再編整備については、生徒が通学できる範囲内に、特色ある高校を適正に配置する視点に立って、各学校の教室・グランドなどの施設条件や、交通機関の利便性など、総合的に判断していきたくと考えています。

## 6 定時制・通信制の再編整備

意見の要旨	府の考え方
<p>定時制など、そこしか居場所のない生徒のため存続を望む。そういった生徒のニーズに応えるには小規模で落ち着いた場が必要である。定時制や通信制にはしっかりと役割があり、それらを再編することよりも全日制の枠を広げることを望む。</p>	<p>多様な生徒が学んでいる定時制課程をより魅力あるものとするため、新しいタイプの単位制高校（フレックス・ハイスクール）を設置してその機能を移したり、全日制の多様化・柔軟化を進めていきたいと考えています。その際には、定時制に入学する生徒の動向や現在定時制が担っている機能も十分に踏まえ、今以上に魅力ある高校となるよう再編整備を進めていきたいと考えています。</p> <p>なお、全日制と定時制の併置は、同一の教室を使用していることや、部活動でグラウンドや体育館の使用に時間的な区分けを要することなど教育活動を行う上での制約があり、この制約は両課程にとって望ましいものではないと考えています。</p>
<p>定時制や分校は、高校教育の推進と地域との共生に大きな役割を持っており、全日制にない特色がある。教育の選択を幅広く、発展的観点に立って改革推進をしてほしい。</p>	
<p>昼間に通えるような独立した学校をつかってほしい。現代のニーズ、地域事情を踏まえフレックス・ハイスクールを設置してほしい。</p>	
<p>定時制課程では、働き学ぶ青年のみならず、色々な事情をもった青年が学び自信をつけ、自立に向かっていく。フレックス・ハイスクールを新設しても定時制を廃止すれば学ぶ機会を失う。中学卒業生の進路状況・高校中退者の推移など定時制入学生徒の動向を十分踏まえるべきだ。</p> <p>併置の解消としているがどのような制約があるのか。</p>	
<p>夜間定時制は京都市内に集中している。山城地域には定時制がなく京都市内まで通っている。市内以外にもフレックス・ハイスクールを設置してほしい。</p>	
<p>子供たちの教育ニーズが多様化する中、単位制高校と連携した通信制は賛成だ。この機会に多様で特色ある高校になるよう大々的に改革を推進してほしい。</p>	<p>通信制課程については、新しいタイプの単位制高校のシステムとの連携をはじめ、今後の情報化のさらなる伸展も見据えながら検討していきます。</p>
<p>通信制高校は、単位制高校と統合し、サテライト教室を設置して居住地近くの学校での授業を可能にすれば、広い地域での受講が可能となるものとする。</p>	

## 7 分校の在り方

意見の要旨	府の考え方
<p>小規模でも先生と生徒や、地域の人々との連帯感がある。生徒減少や本校へという理由で統廃合するのではなく、分校が充実する方向で進めてほしい。</p> <p>分校の学習環境を整え、地元で学べ人間として成長できる高校を整備すべき。</p>	<p>分校の再編整備については、現在、それぞれの分校が果たしている機能や地域における役割について十分に配慮していきたいと考えています。その上で、本校に統合する場合は本校における機能の充実を、分校同士を発展的統合する場合はそれぞれの分校が果たしてきた役割をより発展させる観点から、検討を進めていきます。</p>
<p>交通機関、道路が発達した現在は、統廃合を考慮に入れながら新しい単位制や通信制へ進むべきである。分校を本校に吸収し 学舎として編成する方がよい。</p>	
<p>定時制、分校について、地域の中の学校として存続し、さらに充実を図るべき。学校は、地域になじみ、自然とともに学びゆくところで、生徒が生き生きとした学校が必要だ。</p>	
<p>定時制のシステムを求めての入学者が多く、魅力を感じてくる生徒の存在を認めている中で、小規模な分校は多くなっているが、分校の持っている役割や学びたいというニーズをもった生徒たちを考えないといけない。統合により通学の問題も考慮する必要がある。</p>	

## 8 その他意見

意見の要旨
現状では高校間で教育環境が違う実態がある。進学だけでなく、様々な角度でやる気をもった高校にしていきたい。
過度の特色化は不要ではないか。生徒が選択した結果が取り返しのつかないことになることを危惧する。
生徒のニーズとあるが、自分個人の特性・個性を見出せているのか。
特色のある高校、教育課程が先行しすぎている。今の子供たちにどのような力、心が必要かを明らかにしてシンプルでわかりやすい教育改革を進めてほしい。
中高一貫教育のメリットは、6年間で将来への展望をはっきりさせられること。前3年で明確な進路意識を持たせ、後3年で進路を具体化させるような仕組みを作る必要がある。 中高一貫教育校を増やして欲しい。
中高一貫の短所にも目を向けるべき。幅広い人間関係を保つためには、環境が変わることも必要で、目標をきっちり定めることが肝要である。 高校改革は難しく、なかなか府民に受け入れにくいものであるのも事実であり、子供のニーズにあった総合学科の増設から取り組まれてはどうか。
ゆとり教育もいいが、時間を有効に活用した授業を展開してほしい。
府立高校に色々と特色を持たせ、魅力ある高校にして充実した高校生活ができるようにしてほしい。
能力アップのための特色化は理想であるが、地域の学校で、生徒の立場に立った教育環境を整えてほしい。
生徒の個性に応じた指導を的確に行い、生徒の能力を最大限引き出すことが高校の魅力につながるのではないか。
教員の採用方法の柔軟化や効果的な研修で教員の質を一層高めてほしい。
広い通学区の専門学科と、それほど広くはない通学圏である普通科のバランスを取ることが必要である。
公立高校を地区により振り分けず、生徒が高校の特色に応じ、主体的に選べる選抜制度にしてほしい。
主体的に選択できる入学者選抜制度はよいが、受験機会の複数化は進路そのものの考え方に影響するし、多元的な評価尺度の導入は不明瞭な尺度の選抜になる恐れがあるため、中学生の進路指導の強化もしっかりしてほしい。
総合選抜制で入学者を決めることは、特色ある高校として頑張っていることからみると矛盾しており、もっと希望を重視した選抜制度、できれば単独選抜にすべきである。
公立高校への進学先をより広い範囲に広げていただきたい。南部での改革が優先され、北部での改革が後回しにならないように切実に願う。
障害のある子供たちについて、計画に触れられていないのはなぜか。高校は学習だけではなく、生きていく力を身に付けていく場でもあってほしい。
生徒数の減少期は高校改革推進のチャンスではあるが、特色ある学校を固定・淘汰するより総合選抜を堅持することで一人ひとりの能力・個性が伸ばせると思う。

上記のほか、各学校に対する御意見も多数いただきました。今後も皆さんからの御意見を参考に関係機関等とも十分な連携を図り、検討していきたいと考えています。